

CLUSTERPRO

MC StorageSaver 1.0 for Linux

syslog メッセージ一覧

© 2013(Apr) NEC Corporation

- フォーマットについて
- StorageSaver の
運用メッセージ
- その他のメッセージ
- StorageSaver の
デバッグメッセージ
- 障害解析情報の採取

はしがき

本書は、CLUSTERPRO MC StorageSaver 1.0 for Linux（以後 StorageSaver と記載します）の出力する syslog のメッセージの意味と対処方法について説明したものです。

(1) 本書は以下のオペレーティングシステムに対応します。

IA32 および EM64T 搭載サーバ
Red Hat Enterprise Linux ES/AS 4.x
Red Hat Enterprise Linux 5.x
Red Hat Enterprise Linux 6.x
SUSE Linux Enterprise Server 10 SP3
SUSE Linux Enterprise Server 11
Oracle Linux 5.x
Oracle Linux 6.x

(2) 商標および商標登録

- ✓ Red Hat は、米国およびその他の国における Red Hat, Inc.の商標または登録商標です。
- ✓ SUSE は、米国およびその他の国における Novell, Inc.の登録商標または商標です。
- ✓ Linux は、Linus Torvalds 氏の米国およびその他の国における、登録商標または商標です。
- ✓ その他、本書に登場する会社名および商品名は各社の商標または登録商標です。
- ✓ なお、本書では®、TM マークを明記しておりません。

目次

1. フォーマットについて.....	1
2. StorageSaver の運用メッセージ	2
3. その他のメッセージ	3
3.1. LOG_NOTICE.....	3
<input type="checkbox"/> カーネルパラメータ起因によって発生するエラー	3
3.2. LOG_ERROR	4
<input type="checkbox"/> ライセンス管理に関するエラー.....	4
<input type="checkbox"/> デーモンプロセス起動に関するエラー	4
<input type="checkbox"/> 共有メモリ操作に関するエラー	6
<input type="checkbox"/> コンフィグレーションに関するエラー	7
<input type="checkbox"/> プロセス障害に関するエラー	14
<input type="checkbox"/> srgrecover による構成復旧.....	14
<input type="checkbox"/> クラスタ管理デーモンプロセス clpnm(1M) 強制終了による CLUSTERPRO 連携	15
3.3. LOG_ALERT.....	16
<input type="checkbox"/> システムメモリダンプ採取と OS 強制停止による CLUSTERPRO との連携.....	16
<input type="checkbox"/> TestI/O のリソース監視に関するエラー.....	16
4. StorageSaver のデバッグメッセージ	17
4.1. LOG_ERROR	17
<input type="checkbox"/> I/O ストール障害に関するエラー.....	17
5. 障害解析情報の採取	18
5.1. 本製品の障害解析情報.....	18

1. フォーマットについて

syslog に出力するフォーマットは以下のとおりです。

```
May 24 09:35:26 hostname xxxx[yyyy]: msg
```

- xxxx :コマンド名 (srg)
- yyyy :pid
- msg :メッセージ

syslog の facility と level は以下のとおりです。

facility : LOG_DAEMON

level : LOG_ERROR または LOG_ALERT または LOG_NOTICE

2. StorageSaver の運用メッセージ

特に重要度の高いメッセージを記載します。

これらの syslog メッセージを警報対象として監視することを推奨します。

- TestI/O のリソース監視で異常を検出した場合

LOG_ERROR

**PV status change fail .[hwpath = 'ハードウェアパス名':
s.f = 'スペシャルファイル名'].**

説明: TestI/O で PV レベルの異常を検知

処置: I/O パス異常を検出したので、早急に該当ディスクの点検
または交換を行ってください。

VG status change down .(vg='VG 名')

説明: TestI/O で VG レベルの異常を検知

処置: VG を構成するすべての I/O パスが障害となっています。
早急にディスクの点検または交換を行ってください。

**I/O request uncomplete in time .[hwpath = 'ハードウェアパス名':
s.f = 'スペシャルファイル名'].**

説明: TestI/O で I/O ストールのタイムアウトを検知

処置: ディスクが故障している可能性がありますので、早急に
該当ディスクの点検または交換を行ってください。

- リソース状態の定期通知で異常を検出した場合

LOG_ERROR

Monitor Status is reported, P-stat is down.

説明: I/O パスの異常を検知

処置: TestI/O で異常を検出後、復旧していない可能性があります。
早急に該当ディスクの点検または交換を行ってください。

Monitor Status is reported, L-stat is reduced.

説明: I/O パスの異常を検知

処置: TestI/O で異常を検出後、復旧していない可能性があります。
早急に該当ディスクの点検または交換を行ってください。
さらに、srgrecover を実行して I/O パスの管理状態を
復旧させてください。

3. その他のメッセージ

その他のメッセージの説明を記載します。

これらの syslog メッセージはディスク装置の故障ではなく、デーモンの内部的なエラーのため警報対象として監視することは不要です。

3.1. LOG_NOTICE

- カーネルパラメータ起因によって発生するエラー

maximum number of files that the process can do open. (scsi_inquiry)

説明: Test/O (inquiry) 実行時、プロセスがすでにオープンできるファイルの最大数に達したため、デーモンプロセスが正常に動作できません。

処置: カーネルパラメータ nfiles が枯渇しています。
枯渇した原因を調査してください。

maximum number of files that the process can do open. (scsi_tur)

説明: Test/O (TestUnitReady) 実行時、プロセスがすでにオープンできるファイルの最大数に達したため、デーモンプロセスが正常に動作できません。

処置: カーネルパラメータ nfiles が枯渇しています。
枯渇した原因を調査してください。

maximum number of files that the process can open.(read_syscall)

説明: Test/O (read) 実行時、プロセスがすでにオープンできるファイルの最大数に達したため、デーモンプロセスが正常に動作できません。

処置: カーネルパラメータ nfiles が枯渇しています。
枯渇した原因を調査してください。

3.2. LOG_ERROR

□ ライセンス管理に関するエラー

Activation failed. Product key name is not been entry.

説明:ライセンス認証に失敗しました。有償ロックキーが登録されていません。
処置:ライセンスファイルに有償ロックキーを登録してください。

Activation failed. Cord word is generated by different product key name.

説明:ライセンス認証に失敗しました。有償ロックキーが一致していません。
処置:発行されたコードワードが正しく登録できていることを確認してください。

Activation failed. Cord word is generated by different host ID.

説明:ライセンス認証に失敗しました。ホスト情報が一致していません。
処置:発行されたコードワードが正しく登録できていることを確認してください。

Activation failed. Trial term is expired.

説明:ライセンス認証に失敗しました。試用期限を過ぎています。
処置:正式版のライセンスを登録してください。

□ デーモンプロセス起動に関するエラー

ERROR: Not super user.

説明:スーパーユーザー権限で実行されませんでした。
処置:デーモンプロセスを起動するためスーパーユーザー権限で作業を行ってください。

ERROR: option check error.

説明:オプションの解析に失敗しました。
処置:システムの再起動を行ってください。システムの再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

Cannot initialize FROG library.

説明:ライブラリの初期化に失敗しました。
処置:システムの再起動を行ってください。システムの再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

Cannot entry event (Callback_check_PhysicalDisk).

説明:TestI/O チェックモジュールのイベント登録に失敗しました。
処置:システムの再起動を行ってください。システムの再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

Cannot entry event (Callback_pvstatus_sync).

説明: PV ステータス定期更新モジュールのイベント登録に失敗しました。

処置: システムの再起動を行ってください。システムの再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

srgd(pid:xxx) is already exist.

説明: srgd プロセスが二重起動されました。[xxx = プロセス ID]

処置: 特に必要ありません。監視エンジン srgd の二重起動はできません。

srgping(pid:xxx) is already exist.

説明: srgping プロセスが二重起動されました。[xxx = プロセス ID]

処置: 特に必要ありません。監視モータ srgping の二重起動はできません。

ERROR: PATH putenv error.

説明: 環境変数の設定に失敗して起動できませんでした。

処置: システムの再起動を行ってください。システムの再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

ERROR: LANG putenv error.

説明: 環境変数の設定に失敗して起動できませんでした。

処置: システムの再起動を行ってください。システムの再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

Cannot create daemon process.

説明: StorageSaver の起動(プロセスのデーモン化)に失敗しました。

処置: システムの再起動を行ってください。システムの再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

Cannot close stdio and stderr.

説明: StorageSaver の起動(標準入出力の close)に失敗しました。

処置: システムの再起動を行ってください。システムの再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

Cannot set signal mask.

説明: StorageSaver の起動(シグナルマスクの設定)に失敗しました。

処置: システムの再起動を行ってください。システムの再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

Cannot entry event (Check TestI/O).

説明: StorageSaver の起動(I/O パス監視イベント登録)に失敗しました。

処置: システムの再起動を行ってください。システムの再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

Cannot entry event (Callback_check_proc).

説明: StorageSaver の起動(監視モニタイベント登録)に失敗しました。

処置: システムの再起動を行ってください。システムの再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

Cannot entry event (Callback_daily_check).

説明: StorageSaver の起動(PV ステータス定期通知イベント登録)に失敗しました。

処置: システムの再起動を行ってください。システムの再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

Cannot get alignment area. (error:xxx)

説明: StorageSaver の起動(メモリ確保)に失敗しました。

処置: システムの再起動を行ってください。システムの再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

□ 共有メモリ操作に関するエラー**Cannot get Shm Area(xxx).**

説明: StorageSaver の起動(共有メモリ領域の確保)に失敗しました。

処置: 共有メモリサイズが不足しています。
メモリの空き容量を確認して、SG ファイル
/var/opt/HA/SrG/conf/srg.config の“SHM_BUFF_SIZE”の設定値を増やしてください。

Can not alloc Shared Memory retry.

説明: 共有メモリの取得に失敗しました。

処置: メモリの空き容量を確認して、システムの再起動を行ってください。
システムの再起動を行っても異常が改善されない場合は、
障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

Can not lock Shared Memory .

説明: 共有メモリのロックに失敗しました。

処置: メモリの空き容量を確認して、システムの再起動を行ってください。
システムの再起動を行っても異常が改善されない場合は、
障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

SharedMemoryArea is over

説明: 共有メモリ領域が不足の状態です。

処置: メモリ量を増やしてください。その後、メモリの空き容量を確認して、
システムの再起動を行ってください。
システムの再起動を行っても異常が改善されない場合は、
障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

SharedMemoryArea is empty

説明:共有メモリ領域が空の状態です。

処置:メモリの空き容量を確認して、システムの再起動を行ってください。
システムの再起動を行っても異常が改善されない場合は、
障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

□ コンフィグレーションに関するエラー

Cannot get DeviceFileName.

Cannot get DeviceFileName. (xxx)

説明:H/W Path が存在しません。

処置:SG ファイル /var/opt/HA/SrG/conf/srg.rsc 内のデバイス定義
“PV” にて udev デバイスファイル名の検証を行ってください。

Cannot open srg.config.

説明:StorageSaver の起動(SG ファイル
/var/opt/HA/SrG/conf/srg.config のオープン)に失敗しました。

処置:SG ファイルが存在しない可能性があります。
/opt/HA/SrG/bin/srgquery コマンドで SG ファイルの自動生成を
行ってください。

Cannot open srg.map.

説明:StorageSaver の起動(SG ファイル
/var/opt/HA/SrG/conf/srg.map のオープン)に失敗しました。

処置:SG ファイルが存在しない可能性があります。
/opt/HA/SrG/bin/srgquery コマンドで SG ファイルの自動生成を
行ってください。

Cannot open srg.rsc.

説明:StorageSaver の起動(SG ファイル
/var/opt/HA/SrG/conf/srg.rsc のオープン)に失敗しました。

処置:SG ファイルが存在しない可能性があります。
/opt/HA/SrG/bin/srgquery コマンドで SG ファイルの自動生成を
行ってください。

ERROR: set_path error.

説明:デーモンプロセスが起動時に必要な環境変数の設定に失敗しました。

処置:システムの再起動を行ってください。システムの再起動を行っても
異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに
連絡してください。

srg.rsc error.

説明: srg.rsc ファイルを正しく読み込むことができませんでした。

処置: srg.rsc ファイルが壊れている可能性があります。

ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、/opt/HA/SrG/bin/srgquery
コマンドで SG ファイルの自動生成を行ってください。

srg.rsc error(pv table [Disk Type for VG_NONE]).

説明: srg.rsc ファイルに定義されている Disk Type が不正です。

処置: ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、/opt/HA/SrG/bin/srgquery
コマンドで SG ファイルの自動生成を行ってください。

srg.rsc error(pv table [FC field num not enough.]).

説明: srg.rsc ファイル内の FC 定義が不正です。

処置: ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、/opt/HA/SrG/bin/srgquery
コマンドで SG ファイルの自動生成を行ってください。

srg.rsc error(pv table [SCSI field num not enough.]).

説明: srg.rsc ファイル内の SCSI 定義が不正です。

処置: ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、/opt/HA/SrG/bin/srgquery
コマンドで SG ファイルの自動生成を行ってください。

srg.rsc error(pv table [ISCSI field num not enough.]).

説明: srg.rsc ファイル内の ISCSI 定義が不正です。

処置: ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、/opt/HA/SrG/bin/srgquery
コマンドで SG ファイルの自動生成を行ってください。

srg.rsc error(pv table [PV field num not enough.]).

説明: srg.rsc ファイル内の PV 定義が不正です。

処置: ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、/opt/HA/SrG/bin/srgquery
コマンドで SG ファイルの自動生成を行ってください。

srg.rsc error(vg table [transform sf from device path]).

説明: Test/O 発行用のスペシャルファイル名の取得に失敗しました。

処置: SG ファイル /var/opt/HA/SrG/conf/srg.rsc 内の udev デバイスパス定義
が正しいか確認してください。また、sg3_utils パッケージがインストールさ
れていること、および sg デバイスファイル(/dev/sgX)が作成されているこ
とを確認してください。

srg.rsc error(vg table [transform sf]). (xxx)

説明: Testl/O 発行用のスペシャルファイル名への変換に失敗しました。

処置: SG ファイル /var/opt/HA/SrG/conf/srg.rsc 内の udev デバイスパス定義が正しいか確認してください。また、sg3_utils パッケージがインストールされていること、および sg デバイスファイル(/dev/sgX)が作成されていることを確認してください。

srg.map error.

説明: srg.map ファイルを正しく読み込むことができませんでした。

処置: srg.map ファイルが壊れている可能性があります。

ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、/opt/HA/SrG/bin/srgquery コマンドで SG ファイルの自動生成を行ってください。

srg.map error(vg table [VG field num not enough.]).

説明: srg.map ファイル内の VG 定義が不正です。

処置: ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、/opt/HA/SrG/bin/srgquery コマンドで SG ファイルの自動生成を行ってください。

srg.map error(vg table [RSC_ACTION field num not enough.]).

説明: srg.map ファイル内の RSC_ACTION 定義が不正です。

処置: ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、/opt/HA/SrG/bin/srgquery コマンドで SG ファイルの自動生成を行ってください。

srg.map error(vg table [FS_TYPE field num not enough.]).

説明: srg.map ファイル内の FS_TYPE 定義が不正です。

処置: ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、/opt/HA/SrG/bin/srgquery コマンドで SG ファイルの自動生成を行ってください。

srg.map error(vg table [GROUP field num not enough.]).

説明: srg.map ファイル内の GROUP 定義が不正です。

処置: ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、/opt/HA/SrG/bin/srgquery コマンドで SG ファイルの自動生成を行ってください。

srg.map error(vg table [PV field num not enough.]).

説明: srg.map ファイル内の PV 定義が不正です。

処置: ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、/opt/HA/SrG/bin/srgquery コマンドで SG ファイルの自動生成を行ってください。

srg.config error(TIME_INQ_INTERVAL).

説明: SG ファイル /var/opt/HA/SrG/conf/srg.config 内に、Test/O の発行間隔を指定する“TIME_INQ_INTERVAL”が記述されていますが、設定値に“0”が指定されています。

処置: /opt/HA/SrG/bin/srgquery コマンドで再度 SG ファイルの自動生成を行ってください。または SG ファイルに手動で“TIME_INQ_INTERVAL”を指定してください(デフォルトは 20 秒)。

srg.map error(vg table [PKG]).

srg.map error(vg).

srg.map error(pv).

説明: SG ファイル /var/opt/HA/SrG/conf/srg.map 内に、CLUSTERPRO で規定されたパッケージ名を指定するデバイス定義“PKG”が記述されていますが、パッケージ名が記述されていません。

処置: /opt/HA/SrG/bin/srgquery コマンドで再度 SG ファイルの自動生成を行ってください。または SG ファイルを手動(デバイス定義“PKG”はパッケージ名を指定する)で編集してください。

srg.map error(vg table [PKG NAME]).

srg.map error(vg).

srg.map error(pv).

説明: SG ファイル /var/opt/HA/SrG/conf/srg.map 内に、LVM で規定された VG 名を指定するデバイス定義“VG”が記述されていますが、CLUSTERPRO で規定されたパッケージ名を指定する“PKG”が記述されていません。

処置: /opt/HA/SrG/bin/srgquery コマンドで再度 SG ファイルの自動生成を行ってください。または、SG ファイルを手動(デバイス定義“PKG”を記述)で編集してください。

srg.map error(vg table [VG]).

srg.map error(vg).

srg.map error(pv).

説明: SG ファイル /var/opt/HA/SrG/conf/srg.map 内に、LVM で規定された VG 名を指定するデバイス定義“VG”が記述されていますが、VG 名が記述されていません。

処置: /opt/HA/SrG/bin/srgquery コマンドで再度 SG ファイルの自動生成を行ってください。または SG ファイルを手動(デバイス定義“VG”には VG 名を指定する)で編集してください。

srg.map error(vg table [RSC_ACTION]).

srg.map error(vg).

srg.map error(pv).

説明: SG ファイル /var/opt/HA/SrG/conf/srg.map 内に、各 VG の異常検出時のアクションを指定するデバイス定義“RSC_ACTION”が記述されていますが、LVM で規定された VG 名を指定する“VG”が記述されていません。

処置: /opt/HA/SrG/bin/srgquery コマンドで再度 SG ファイルの自動生成を行ってください。または SG ファイルを手動(デバイス定義“VG”を記述)で編集してください。

srg.map error(vg table [FS_TYPE]).

srg.map error(vg).

srg.map error(pv).

説明: SG ファイル /var/opt/HA/SrG/conf/srg.map 内に、ファイルシステムを指定するデバイス定義“FS_TYPE”が記述されていますが、LVM で規定された VG 名を指定する“VG”が記述されていません。

処置: /opt/HA/SrG/bin/srgquery コマンドで再度 SG ファイルの自動生成を行ってください。または、SG ファイルを手動(デバイス定義“VG”を記述)で編集してください。

srg.map error(vg table [GROUP]).

srg.map error(vg).

srg.map error(pv).

説明: SG ファイル /var/opt/HA/SrG/conf/srg.map 内に、各 PV のグループを指定するデバイス定義“GROUP”が記述されていますが、LVM で規定された VG 名を指定する“VG”が記述されていません。

処置: /opt/HA/SrG/bin/srgquery コマンドで再度 SG ファイルの自動生成を行ってください。または、SG ファイルを手動(デバイス定義“VG”を記述)で編集してください。

srg.map error(vg table [PV]).

srg.map error(vg).

srg.map error(pv).

説明: SG ファイル /var/opt/HA/SrG/conf/srg.map 内に、スペシャルファイルと H/W Path を指定するデバイス定義“PV”が記述されていますが、LVM で規定された“VG”が記述されていません。

処置: /opt/HA/SrG/bin/srgquery コマンドで再度 SG ファイルの自動生成を行ってください。または、SG ファイルを手動(デバイス定義“VG”を記述)で編集してください。

srg.map error(group table [GROUP]).

srg.map error(pv).

説明: SG ファイル /var/opt/HA/SrG/conf/srg.map 内に、各 PV のグループを指定するデバイス定義“GROUP”が記述されていますが、group 番号が記述されていません。

処置: /opt/HA/SrG/bin/srgquery コマンドで再度 SG ファイルの自動生成を行ってください。または、SG ファイルを手動(デバイス定義“GROUP”に group 番号を指定する)で編集してください。

srg.map error(group table [PV]).

srg.map error(vg).

srg.map error(group).

説明: SG ファイル /var/opt/HA/SrG/conf/srg.map 内に、スペシャルファイルと H/W Path を指定するデバイス定義“PV”が記述されていますが、各 PV のグループを指定するデバイス定義“GROUP”が記述されていません。

処置: /opt/HA/SrG/bin/srgquery コマンドで再度 SG ファイルの自動生成を行ってください。または、SG ファイルを手動(デバイス定義“GROUP”を記述)で編集してください。

srg.map error(vg table [transform sf from device path]).

説明: Test/O 発行用のスペシャルファイル名の取得に失敗しました。

処置: SG ファイル /var/opt/HA/SrG/conf/srg.map 内の udev デバイスパス定義が正しいか確認してください。また、sg3_utils パッケージがインストールされていること、および sg デバイスファイル(/dev/sgX)が作成されていることを確認してください。

srg.map error(vg table [transform sf]). (xxx)

説明: Test/O 発行用のスペシャルファイル名への変換に失敗しました。

処置: SG ファイル /var/opt/HA/SrG/conf/srg.map 内の udev デバイスパス定義が正しいか確認してください。また、sg3_utils パッケージがインストールされていること、および sg デバイスファイル(/dev/sgX)が作成されていることを確認してください。

srg.rsc error(pv table [FC HWpath]).

説明: SG ファイル /var/opt/HA/SrG/conf/srg.rsc 内に、HBA 情報を定義する“FC”が記述されていますが、FC の H/W Path が記述されていません。

処置: /opt/HA/SrG/bin/srgquery コマンドで再度 SG ファイルの自動生成を行ってください。または、SG ファイルを手動(“FC”に FC の H/W Path を指定する)で編集してください。

srg.rsc error(pv table [Interface Type]).

説明:SG ファイル /var/opt/HA/SrG/conf/srg.rsc 内に、I/O パス情報を定義する“PV”が定義されていますが、HBA 情報を定義する“FC”が記述されていません。

処置:/opt/HA/SrG/bin/srgquery コマンドで再度 SG ファイルの自動生成を行ってください。または、SG ファイルを手動(“FC”を記述)で編集してください。

srg.rsc error(pv table [Disk Type]).

説明:SG ファイル /var/opt/HA/SrG/conf/srg.rsc 内に、I/O パス情報を定義する“PV”が定義されていますが、ディスク種別が指定されていません。

処置:/opt/HA/SrG/bin/srgquery コマンドで再度 SG ファイルの自動生成を行ってください。または、SG ファイルを手動(“PV”にディスク種別を指定)で編集してください。

□ プロセス障害に関するエラー

fork failed .(pid=xxx)

説明: 子 (srgping) プロセス生成に失敗しました。 [xxx = プロセス ID]

処置: システム負荷が高い場合に発生します。

連続して出力された場合はシステムリソース状態を確認してください。

fork failed .(pid=xxx proc=_srgreduce_pv_)

説明: 自動閉塞 (_srgreduce_pv_) プロセス生成に失敗しました。

[xxx = プロセス ID]

処置: システム負荷が高い場合に発生します。

連続して出力された場合はシステムリソース状態を確認してください。

□ srgrecover による構成復旧

srgrecover start.: xxx

説明: 構成復旧コマンドを開始します。

処置: 特に必要ありません。正常メッセージです。

srgrecover complete.: xxx

説明: 構成復旧コマンドが正常終了しました。

処置: 特に必要ありません。正常メッセージです。

srgrecover fail.: xxx

説明: 構成復旧コマンドが失敗しました。

処置: 現在の構成を再度点検し、障害状態が復旧されているか確認してください。

異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

- クラスタ管理デーモンプロセス clpnm(1M) 強制終了による CLUSTERPRO 連携

SG の設定によって出力されるメッセージです。通常は使用しません。

start KILL clpnm.

説明: クラスタ管理デーモンプロセス (clpnm) 強制終了を開始します。

処置: ディスク装置の障害により、クラスタ契機切り替えが発生しています。早急に該当ディスクの点検または交換を行ってください。

send signal clpnm.

説明: クラスタ管理デーモンプロセス (clpnm) 強制終了を完了しました。

処置: ディスク装置の障害により、クラスタ契機切り替えが発生しています。早急に該当ディスクの点検または交換を行ってください。

abort srgd.

説明: srgd が 異常終了しました。

処置: ディスク装置の障害により、クラスタ契機切り替えが発生しています。早急に該当ディスクの点検または交換を行ってください。

NOT found clpnm.

説明: SG ファイル /var/opt/HA/SrG/conf/srg.config 内の VG_FAULT_ACTION または VG_STALL_ACTION に CLPNM_KILL_ENABLE を指定している場合で、ディスク装置の障害を検知、もしくは I/O ストールを検知しましたが、クラスタ管理デーモンプロセス clpnm は存在しませんでした。

処置: CLUSTERPRO を利用したクラスタシステムでのみ有効です。CLUSTERPRO を利用しない場合は、VG_FAULT_ACTION と VG_STALL_ACTION には CLPNM_KILL_ENABLE 以外を指定してください。

3.3. LOG_ALERT

- システムメモリダンプ採取と OS 強制停止による CLUSTERPRO との連携

start kernel system dump.

start kernel system dump. (VG_STALL)

説明: システムメモリダンプの採取を開始

処置: ディスク装置の障害により、クラスタ契機切り替えが発生しています。早急に該当ディスクの点検または交換を行ってください。

set kernel system dump flag.

set kernel system dump flag. (VG_STALL)

説明: OS 強制停止を開始

処置: ディスク装置の障害により、クラスタ契機切り替えが発生しています。早急に該当ディスクの点検または交換を行ってください。

- Testl/O のリソース監視に関するエラー

Testl/O error is ocured, errno=xxx.

説明: Testl/O で内部エラーが一定時間連続で検出されました。

[xxx = errno]

処置: 発生したエラー(errno)にしたがって、システムを点検してください。異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

4. StorageSaver のデバッグメッセージ

デバッグ関連メッセージの説明を記載します。

4.1. LOG_ERROR

- I/O ストール障害に関するエラー

DEBUG:I/O stall DEBUG mode start. I/O stall start.

説明:I/O ストール擬似障害を開始します。

処置:特に必要ありません。

DEBUG:I/O stall DEBUG mode end. I/O restore.

説明:I/O ストール擬似障害を終了します。

処置:特に必要ありません。

5. 障害解析情報の採取

本製品運用中に何らかの障害が発生した場合は、下記の手順に従って情報採取を行ってください。

5.1. 本製品の障害解析情報

- StorageSaver 構成ファイル群
StorageSaver の構成ファイル群を保存します。
tar(1) コマンドなどを使用して、以下に示すディレクトリ配下のすべてのファイルを採取してください。

```
/var/opt/HA/SrG/conf  
/var/opt/HA/SrG/local/conf  
/var/opt/HA/SrG/log
```

- syslog
障害発生時の syslog ファイルを保存します。

```
/var/log/messages*
```

- ホスト情報

本製品を実行しているホスト上で、以下の情報を採取してください。

監視構成ファイル	<i>/var/opt/HA/SrG/conf</i> 配下の全ファイル <i>/var/opt/HA/SrG/local/conf</i> 配下の全ファイル
トレースファイル	<i>/var/opt/HA/SrG/log</i> 配下の全ファイル
syslog ファイル	<i>/var/log/messages</i> ファイル
コマンド実行一時ファイル	<i>/var/opt/HA/SrG/local</i> 配下の全ファイル
コマンド出力結果	<i>rpm -qa</i> <i>sg_scan -i /dev/sd*</i> <i>ls -l /dev/disk/by-path/*</i> <i>cat /proc/scsi/sps/dd* (※1)</i> <i>powermt display dev=all (※2)</i> <i>vgdisplay -v (※3)</i> <i>lvdisplay -v (※3)</i> <i>pvdisplay -v (※3)</i> (※1) SPS を利用したマルチパス構成の場合 (※2) PowerPath を利用したマルチパス構成の場合 (※3) LVM 構成の場合
クラスタ関連ファイル	(※)クラスタ関連ファイルについては各クラスタウェア製品により異なりますので、製品ごとにマニュアルを参照してください。

- 操作ログ

再現方法が明確な場合は、操作ログを採取してください。

CLUSTERPRO
MC StorageSaver 1.0 for Linux
syslog メッセージ一覧

2013 年 4 月 第 2 版
日本電気株式会社
東京都港区芝五丁目 7 番地 1 号
TEL (03) 3454-1111 (代表)

⒫

© NEC Corporation 2013

日本電気株式会社の許可なく複製、改変などを行うことはできません。
本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。

保護用紙